

平成29年8月1・10日実施

## 「親子で学ぼう！読書感想文」保護者プログラムの様子

講師：福地 朋子さん

(一般社団法人教育コミュニケーション協会 キッズ作文トレーナー)



### 【講座のはじめ】



★今日の講座は、「子どもが、自分の意見や感情を他人にしっかり説明できるようになる」ために、大人がその引き出し方を知ることが目的としています。  
なので、小説のようなきれいな言い回しの文章を書くことではなく、子どもたちの気持ちを引き出すことをめざしています。

### 【子どもの気持ちを引き出すために】

- ★子どもの「教えたて！」という気持ちを大切にしましょう。  
例えば、初めて何かができるとき、子どもが「聞いて聞いて！こんなことできたよ！」と言ってきたことありませんか？そのとき、もし大人が「ふーん」と興味のない返事をしてしまったら、子どもの「教えたて！」という気持ちはしぼんでしまいます。
- ★子どもと会話するとき、絶対にまず否定しないでくださいね。間違っただけを言ってきても、いったんまず受け止めてから、意見交換するようにしましょう。
- ★毎日の会話で、「自分の意見や感情を他人にしっかり説明できるようになる」練習ができます。そうすると、社会で出ても、必要な場面で必要なことを発信できるようになります。
- ★例えば、「今日、学校どうだった？」という質問では、子どもも何て答えていいかわからず、「別に…」となってしまうがち。そうではなく、「今日の給食の時間で、何か教えたてことある？」と聞くと、「んー、そういえば、〇〇がおいしくて…」とか、話が広がるかもしれません。
- ★「うまく説明できる」ことは、「頭がいい」とか「しっかりしている」ということは別です。ルールを知って練習すれば、誰でもできます！

## 【子どもが書いている作文を、大人も体験してみよう】

★では、お子さんが今がんばって書いている作文を、大人も書いてみましょう。子どもさんは読書感想文を書いています。みなさんには「うちの子じまん」というテーマで作文を書いてもらいます。ワークシートの中身も、子どもさんが使うものとほぼ同じです。

お家に帰ったら、ぜひお子さまに読んであげてくださいね。

★このワークシートは「意見や感情を引き出す7つの質問」をベースに作ってあります。気持ちを先に聞き、後で事実関係を聞くという順番になっています。5W1Hから聞くと、気持ちが出にくくなるからです。

★作文に間違いはないし、正解もありません。ほめポイントは、自分の考えや気持ちがどれだけ表現できたかに視点を向けることです。

### 【最後に】

★子どもたちも、がんばって読書感想文を書いたと思います。

途中までしか書けていない子もいるかもしれません。

でも、まずは読んでみて、自分の気持ちが表現できていることをほめてあげてください。

決して、子どもの書いたことを否定しないでくださいね。



### ♡アンケートより♡

- ・わかりやすく、楽しく、子どもへの言葉かけや親としての心がけなど、とてもためになる講座でした。
- ・読書感想文だけでなく、作文や、日常の子どもとの会話のポイントなどについてもとても勉強になりました。受講できてよかったです。今後の子育てに役立てていきたいと思います。
- ・普段から ダメ！やめなさい！など言うのですが、少し子どもとの時間を取って、話す時間を作りたいと思いました。
- ・子どもの意見を「くだらない」「まちがっている」という気持ちや批判する事を言わずに表現させる雰囲気作りが大切だと思いました。
- ・子どもが取り組んでいる内容と同じ事に、親が取り組み、子どもの大変さや頑張っていることが共有できたと思います。親子で学べるのがよかった。